

日本海スルメイカ漁場開発調査

(東奥丸・イカ類漁場調査、青鵬丸・魚群情報速報事業)

十三 邦昭・中田 凱久・涌坪 敏明

発表誌名

イカ釣漁場開発調査資料Ⅻ(昭和63年4月)及び、昭和62年度外洋性イカ(スルメイカ、アカイカ)に関する生物測定、標識放流、海洋観測基礎資料集

抄 録

昭和62年6月～9月の期間、試験船東奥丸と青鵬丸によって漁場調査を実施した。

1. 本県対馬暖流の勢力は、昨年、例年より、やや強勢であった。
2. このため、本県沖では近年になく早い初漁がみられた。
3. 期間中、東奥丸で10回、青鵬丸で32回の漁獲試験により、スルメイカ 8,392尾の釣獲でここ5年では最も多く、1操業当りでも同様であった。
4. 魚体は、沖合漁場では近年になく大型で、特に8月～12月までが顕著であった。沿岸漁場はそれとは逆に5～6月が特に小型であったのが特徴であった。また、漁期末期の1月も例年より小型で、1月20日の魚体精密調査では、雌の半熟以上の個体や交接個体も非常に少なく、殆んどが未熟個体であったことなどから、この群は4～5月頃に産卵する春生まれ群でないかと推定された。
5. 日本海における本県の総水揚量は29,183トンで、59年以降最も多いが、近年では平年並か、やや上回る程度であった。
6. 漁場別では、沿岸域漁獲量は3,104トンで近年にない好漁であったが、沖合漁場では26,079トンで、平年並か、やや下回る漁であった。